



令和2年度 河川基金研究成果発表会

オンデマンド配信
2020.10.27～2020.11.10

河川基金 研究成果発表会のご案内

2019年度河川基金助成（研究者・研究機関部門）を完了した助成者による成果発表会を開催いたします。

この発表会は、その成果を積極的に社会へ発信し、広く普及還元するため毎年開催しております。今年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点より、オンデマンド配信で行うことになりました。是非多くの皆様からのお申込みをお待ちしております。

◆コース◆

- ・コース① 河川環境・生態関係 1
- ・コース② 河川環境・生態関係 2
- ・コース③ 河川環境・生態関係以外の工学・自然科学+社会科学・文理融合系 1
- ・コース④ 河川環境・生態関係以外の工学・自然科学+社会科学・文理融合系 2
- ・コース ジュニア 中学・高等学校のクラブ活動（動画）

※コース①～④は土木学会 CPD プログラムの認定を受けています。

※コース内容の詳細は次頁の発表者リストをご覧ください。

◆お申込み◆

河川財団 河川基金 HP より申込みを行ってください。

◆申込み受付◆

2020年9月25日（金）から2020年10月25日（日）まで

令和2年度 河川基金 研究成果発表会開催プログラム

- ◆日程・・・令和2年10月27日から11月10日の2週間
- ◆形式・・・オンデマンド方式で配信
 - ①から④は一人約10分の発表、
 - ジュニア研究は各10分の動画
- ◆CPD・・・土木学会CPDプログラム認定を受けています
(ジュニア研究を除く)

■コース① 発表者18名 (3時間20分) <CPD3.4単位>
河川環境・生態関係 1

■コース② 発表者18名 (3時間20分) <CPD3.4単位>
河川環境・生態関係 2

■コース③ 発表者20名 (3時間40分) <CPD3.7単位>
工学・文理融合関係 1

■コース④ 発表者20名 (3時間40分) <CPD3.7単位>
工学・文理融合関係 2

■コース ジュニア 発表校 9校 (1時間40分)

※各コースの詳細は発表者リストをご覧ください。
※コースジュニアはCPDプログラム対象外です。



河川基金

公益財団法人 河川財団

基金事業部

〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町 11-9

住友生命日本橋小伝馬町ビル 2階

TEL 03-5847-8303

お申込みは河川基金 HP より受付中

<https://www.kasen.or.jp/tabid363.html>



河川基金研究成果発表会

コース ①

河川環境・生態関係 1

No.	所属機関	役職名	申請者氏名	助成事業名
①-1	日本水フォーラム	代表理事・事務局長	竹村 公太郎 (桑原清子)	流域における水循環の取組み促進策に関するアウトリーチ活動
①-2	国立研究開発法人土木研究所 水環境研究グループ 河川生態チーム	専門研究員	田和 康太	河道内氾濫原におけるカエル類と止水性水生昆虫の保全生態学的検討
①-3	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒地河川チーム	主任研究員	大石 哲也	かく乱跡地の初期植生の予測に向けた種子着床メカニズムに関する研究
①-4	島根大学生物資源科学部	教授	山口 啓子	斐伊川水系汽水域におけるアカエイの食性と分布からみた水域利用特性
①-5	国立高等専門学校機構 阿南工業高等専門学校	准教授	大田 直友	那賀川河口代償干潟における底生生物加入・回復過程の長期モニタリング調査
①-6	龍谷大学	教授	奥田 哲士	大和川由来のCDOM(有色溶存有機物)の由来および特性
①-7	東邦大学	講師	下野 綾子	草原性植物に着目した河川堤防の生態系ネットワーク機能の評価
①-8	学校法人大阪医科薬科大学 大阪薬科大学大学院薬学研究科	助教	東 剛志	都市部を流れる河川流域を対象にした薬剤耐性菌の特性解析
①-9	東海大学	教授	仁木 将人	多波長分光カメラを用いた河口干潟底生珪藻の面的観測
①-10	茨城大学	准教授	中里 亮治	溪流魚体内の放射性セシウム濃度のインサイト測定システムの確立とそれを利用した帰還困難区域の森林小河川に生息する溪流魚のセシウム蓄積速度に関する研究
①-11	国立研究開発法人土木研究所	主任研究員	對馬 育夫	ダム湖周辺の水環境改善に向けた植物プランクトン試験効率化システムの開発
①-12	信州大学学術研究院 理工学域繊維学系	教授	平林 公男	大規模河川の瀬における底生動物調査地点の決定手法の確立
①-13	森林研究・整備機構 森林総合研究所	主任研究員	伊藤 優子	降水モニタリングによる日本海森林域への越境大気浮遊菌の流入実態の解明
①-14	名古屋大学	准教授	中川 書子	大気硝酸濃度を指標に用いた河川環境における窒素浄化能の高確度評価方法の開発と検証
①-15	国立研究開発法人 土木研究所	主任研究員	宮川 幸雄	河床材料の粒径分布を用いた石礫の露出高の簡易予測手法の複数河川への適用による精度の検証
①-16	京都大学 生態学研究センター	特定准教授	宇野 裕美	氾濫原における稚魚成長場所
①-17	信州大学 理学部附属 諏訪臨湖実験所	助教	笠原 里恵	DNAメタバーコーディングを用いた大型魚食性鳥類の繁殖期の食物内容の把握
①-18	東京大学大気海洋研究所 (現:北海道大学水産科学研究院)	特任研究員	川上 達也	三陸沿岸河川において自然繁殖するサケが示す産卵環境に対する選択性の解明

河川基金研究成果発表会

コース ②

河川環境・生態関係 2

No.	所属機関	役職名	申請者氏名	助成事業名
②-1	国立研究開発法人 土木研究所 自然共生研究センター	主任研究員	林田 寿文	魚類の遡上エリア拡大を目的とした小規模河川横断工作物の切欠き設置法の検討と実践
②-2	国立研究開発法人 土木研究所 自然共生研究センター	専門研究員	末吉 正尚	河川-水路ネットワークと生息場環境が氾濫原性魚類に与える影響解明
②-3	現所属: 応用地質株式会社 地球環境事業部 応用生態工学研究所	専任職	小野田 幸生	総土砂管理の効果の評価に向けたカワシオグサの生育条件の解明
②-4	上智大学 理工学部	教授	木川田 喜一	霧島硫黄山の火山活動が河川環境へ与える影響の定量的評価
②-5	福岡工業大学 社会環境学部 社会環境学科	准教授	乾 隆帝	環境DNAメタバーコーディングの空間解像度調整に関する検討
②-6	東北大学大学院 工学研究科	准教授	梅田 信	湖沼の水環境における構造化生態系解析の開発と応用
②-7	神戸大学	教授	中山 恵介	成層を強化し貧酸素水塊およびアオコの発生を促す地下水のモデル化
②-8	徳島大学	准教授	河口 洋一	地表徘徊性昆虫に注目した那賀川水系長安口ダム下流の置土実験の評価
②-9	東京理科大学 理工学部 土木工学科	助教	片岡 智哉	風・流れによる流体力学的条件を考慮した河川マイクロプラスチック鉛直分布モデルの開発
②-10	山梨大学大学院 総合研究部	教授	原本 英司	河川水中の病原ウイルスの新規汚染指標の探索
②-11	東京都立大学	教授	横山 勝英	都市河川の感潮域における有機汚泥の堆積・浸食・浮上の定量評価
②-12	国立高等専門学校機構 香川高等専門学校	講師	高橋 直己	アユの遡上環境改善に有効な簡易魚道の運用方法の検討
②-13	(公財)ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター	研究員	古賀 佑太郎	発生源別栄養塩面源負荷原単位の逆推計手法の開発
②-14	国立環境研究所	特別研究員	阿部 博哉	沖縄県久米島におけるサンゴ保全のための適応策の検討ー赤土流出・拡散モデルを用いた陸域負荷量の削減目標の設定ー
②-15	富山大学	助教	太田 民久	ウロコのストロンチウム同位体比を用いた河川魚類の行動履歴研究
②-16	金沢大学 環境保全センター	講師	花本 征也	国内河川における動物用医薬品の濃度予測に関する研究
②-17	東京農工大学 グローバルイノベーション研究院	特任助教	末永 俊和	河川におけるN ₂ O放出ダイナミクスの調査と因子の探索
②-18	信州大学 理学部 総合医理工学研究科	DC3	谷野 宏樹	狩野川・富士川水系のワンド・タマリにおける止水生昆虫相と遺伝構造・遺伝子流動解析

河川基金研究成果発表会

コース ③

河川環境・生態関係以外の工学・自然科学 + 社会科学・文理融合系 1

No.	所属機関	役職名	申請者氏名	助成事業名
③-1	土木学会 地盤工学委員会 堤防研究小委員会	委員長	前田 健一	河川堤防の安全性評価技術と水防技術の向上
③-2	土木研究所自然共生研究センター	主任研究員	森 照貴	鬼怒川での環境に配慮した高水数掘削の効果検証
③-3	愛媛大学大学院理工学研究科 生産工学専攻環境建設工学コース	准教授	門田 章宏	急流河川における洪水流と土砂流出を制御する「水制」のデザイン
③-4	京都大学大学院 農学研究科	助教	中谷 加奈	住宅地へ流入する土石流溪流の実態把握と防災対策の検討
③-5	富山大学 都市デザイン学部	教授	木村 一郎	流木の力学機構に立脚した出水時の流木制御のための基盤技術
③-6	立命館大学 総合科学技術研究機構	教授	WELLS, John C.	琵琶湖ナウキャストシステム実現へむけた連続モニタリング手法の構築
③-7	お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーションセンター	特任講師	渡辺 友美	河川環境資料映像の保管実態把握と環境教育教材への活用
③-8	東京大学大学院工学系研究科	准教授	知花 武佳	地理的・社会的特性を踏まえた河川の領域区分手法の提案
③-9	摂南大学 理工学部 都市環境工学科	准教授	石田 裕子	巨椋池を活用した淀川流域の治水手法と生態系創出に関する研究
③-10	群馬大学大学院理工学府	助教	松本 健作	観測孔内水位の出水時応答特性に着目した堤防基盤漏水リスク監視システムの現場適用性検証
③-11	北海道大学大学院工学研究院	准教授	磯部 公一	災害履歴と地形・地質情報に基づく既設渡河橋梁直接基礎の洗掘危険度評価
③-12	近畿大学理工学部	教授	河井 克之	物理探査による河川堤防内含水状態把握
③-13	東京大学	特任講師	渡部 哲史	水害が過疎化の進展に及ぼす影響の解明
③-14	京都大学大学院 研究科	准教授	PIPATPONGSA THIRAPONG	堤体内の浸潤面上昇により地震時に液状化に至るリスクポテンシャルの解明
③-15	島根県立益田翔陽高等学校	教諭	阿部 志朗	海上輸送と繋がった近代河川舟運による日用品の流通に関する研究-石見地方の窯業製品の分布を手がかりに-
③-16	東北大学災害科学国際研究所	准教授	佐藤 翔輔	発生から50年経過した洪水災害の伝承実態に関する研究
③-17	名古屋大学大学院工学研究科	教授	戸田 祐嗣	河道管理研究推進のための体制整備と管理技術の体系化
③-18	岐阜大学	教授	神谷 浩二	粗粒の礫分を多く含む河川堤防の内部浸食に起因した破壊形態とその対策に関する研究
③-19	京都大学防災研究所	准教授	川池 健司	河床地形の変動を考慮した中小河川の氾濫リスク評価手法に関する研究
③-20	埼玉大学大学院 理工学研究科	教授	田中 規夫	広い高水数をもつ河川における洪水時の強風による吹き寄せと風応力が局所的河川水位の上昇と潜在的氾濫リスクに与える影響

河川基金研究成果発表会

コース ④

河川環境・生態関係以外の工学・自然科学 + 社会科学・文理融合系 2

No.	所属機関	役職名	申請者氏名	助成事業名
④-1	兵庫県立大学大学院	教授	川村 教一	新しい土砂災害のモデル実験教材の開発と実践研究
④-2	北海道大学	特任准教授	久加 朋子	急流河川における樹木流失・ハイドログラフ形状の違いに伴う流路幅変動特性
④-3	島根大学法文学部	准教授	嘉村 雄司	自動車保険における「運行起因性」の要件と水害
④-4	北海道大学	准教授	小泉 逸郎	湧水河川とは何か？水温・流況に着目した量的アプローチ
④-5	東京海洋大学	准教授	原田 幸子	多様化する河川利用の利用調整に関する研究：ウォータースポーツの発展と地域振興の視点から
④-6	九州大学	教授	矢野 真一郎	気候変動の影響を考慮した流木リスク評価手法の開発
④-7	佐賀大学	教授	大串 浩一郎	鹿島市浜地区における水災害危険度の評価と住民の避難計画の検討
④-8	岡山大学	准教授	樋口 輝久	近世最大規模の砂防施設“別所砂留”の築造と災害履歴の解明
④-9	福岡工業大学	客員研究員	寺村 淳	有明海流入河川における近世以降の水害史の定量評価と災害リスクの潜在性の検証
④-10	東京理科大学	教授	二瓶 泰雄	地震・洪水複合災害に対する河川堤防の耐災性に関する検討
④-11	宇都宮大学	教授	池田 裕一	急流河川の砂州上の植生繁茂が中規模出水時の流動形態および側岸侵食に与える影響
④-12	国立高等専門学校機構 高知工業高等専門学校	准教授	岡田 将治	高知県四万十市を対象とした平成30年西日本豪雨災害時における住民の防災情報の理解と活用に関する調査および災害リスクコミュニケーションの実践
④-13	徳島大学大学院 社会産業理工学研究部	教授	鎌田 磨人 (今井洋太)	小流域における耕作放棄水田を活用した地域住民主導の河川管理手法の構築
④-14	東京工業大学	助教	巖島 怜	山地河川におけるstep-pool構造の形成要因と河道・流域条件の関係に関する研究
④-15	東京大学大学院	博士後期課程 2年	武藤 裕花	林業形態の地域性に全国の河川流域の地理特性が及ぼす影響の分析
④-16	国立研究開発法人土木研究所 水環境研究グループ 自然共生研究センター	専門研究員	坂本 貴啓	官民連携の河川管理に向けた河川協力団体の活動特性の把握と運用課題に関する全国調査
④-17	京都大学 防災研究所	特定研究員	山田 真史	谷底平野領域での氾濫水挙動の模型実験と地形条件に応じた氾濫解析モデル選択基準の提案
④-18	土木研究所ICHARM	専門研究員	秦 夢露	流域地質による扇状地河道の変動特性および堤防と護岸の影響に対する応答特性の違い
④-19	土木学会水工学委員会 令和元年8月佐賀豪雨災害調査団	佐賀大学 教授 団長	大串 浩一郎	令和元年8月佐賀豪雨災害調査
④-20	土木学会 令和元年台風19号豪雨災害調査団	群馬大学 教授 総団長	清水 義彦 (赤松 良久)	令和元年台風19号豪雨災害調査

河川基金研究成果発表会

コース ジュニア

ジュニア研究者

No.	学校名	役職名	代表者氏名 顧問氏名	助成事業名
ジュニア 1	私立鶯谷中等・高等学校	学校長 自然科学部顧問	横山 豊 扇本 尚敏	ヒダサンショウウオの産卵行動の全容解明
ジュニア 2	岡山理科大学附属高等学校	校長 科学部顧問	田原 誠 高橋 和成	最終氷期スギ逃避地から河川環境に広がった樹皮生粘菌の分布拡大
ジュニア 3	市立札幌旭丘高等学校	校長 生物部顧問	林 恵子 綿路 昌史	自然界の薬剤耐性菌を探せ!Ⅲトンボと河川を巡る耐性菌~
ジュニア 4	山口県立山口高等学校	校長 化学・生物部顧問	木村 香織 濱田 敦	汽水域に生息するウズムシの生活と河川環境
ジュニア 5	多治見高等学校	校長 地域探求部顧問	鈴木 彰 佐賀 達矢	高校生による効果検証を含めた水辺の小さな自然再生
ジュニア 6	学校法人金光学園 金光学園中学・高等学校	校長 生物部顧問	金光 道晴 小畑 嘉奈子	モクズガニを守り殖やす
ジュニア 7	加藤学園高等学校	学校長 科学部顧問	加藤 瑠美子 菊間 一樹	富士山麓を流れるユニークな黄瀬川の現場観測を化学教育に取りこむ試み
ジュニア 8	高槻市立第六中学校	校長 自然観察同好会 顧問	檜山 裕美子 神戸 英孝	淀川の自然環境調査と自然保護に向けて
ジュニア 9	高岡市立中田中学校	校長 科学部顧問	杉山 直孝 岩岸 利勝	ゲンジボタルの幼虫やカワニナなどの生物が住みやすい川、水辺の環境調査